

注意！

■この記事は発行年月日時点の内容のまま公開していますので、ご覧になった時点の法規制（農薬使用基準等）等に適合しなくなった内容を含む可能性がありますから、利用にあたってはご注意ください。

農作物技術情報 第7号 畑作物

発行日 平成20年 9月25日
発行 岩手県、岩手県農作物気象災害防止対策本部
編集 中央農業改良普及センター 県域普及グループ（電話 0197-68-4435）

「いわてアグリベンチャーネット」は9月1日からリニューアル！
新しいアドレスは「<http://i-agri.net>」（過去記事は <http://www.nougyou.kitakami.iwate.jp/agri/>）

大豆：10月中旬から大豆の収穫が始まります。収穫機械の調整・清掃や圃場の除草を行い、適期に収穫できるよう準備をすすめてみましょう。また、施設を利用して乾燥調製を行う場合は、あらかじめ連絡を取り合い、計画的に作業できるようにしましょう。

小麦：小麦の播種適期となっています。適期を逃さず確実に作業を行い生育量の確保に努めましょう。圃場条件が整わず適期を逃した圃場では、播種量を増やし、条件の良い時を待って播種しましょう。

大豆

生育の様子：天候に恵まれ、順調に登熟しており、成熟期は平年並みと思われます。

1 収穫作業のまえに

除草

シロザやアメリカセンダングサなどの大型雑草は、収穫時に汚損粒の発生原因となるので、収穫前に取り除きましょう。

次年度の発生源にもなるので、収穫作業が忙しくなる前に除草を行いましょう。

コンバインの清掃

収穫作業の前には必ず清掃を実施し、作業に支障が出ないか確認しておきましょう。また、土をかみ込んだ時など収穫作業中でもコンバインの清掃が必要となることがあるので、清掃のポイントを把握し、効率的に行えるようにしておきましょう。

乾燥・調整施設の確認

乾燥・調整施設を利用する場合には、その稼働計画について確認し、ほ場の様子を踏まえた上で、刈り取りの順番、収穫機械やオペレーターの確保等、準備をすすめてみましょう。

2 収穫

成熟期の判断

適期に収穫するためには、まず成熟期を知ることが必要となります。

成熟期は次の2つから判断します。

（1）ほ場のほとんどの株で、大部分の莢が熟色になっている

（2）莢の中の子実が乾燥子実の形になっている

莢を振ってカラカラ音がするようになったら、数カ所で実際に莢をむいて確認します。

成熟期を確認したら、表1を参考に収穫作業に入ります。

表1 成熟期からのコンバイン収穫適期までの日数

品種	成熟期後日数(日)		収穫適期間
	早限	晚限	
コスズ	7～10日後	30日後	20～24日
スズカリ、ナンブシロメ	10日後	20～25日後	10～15日
青丸くん	10日後	16日後	6日間前後

「青丸くん」は、刈り遅れると子実の色抜けが生じます。直ちに刈り取れる体制を整えておき、収穫適期間になったら、一気に刈り取るようにしましょう。

コンバイン収穫のポイント

- ・コンバインによる収穫は、成熟期以降で茎水分が50%以下となった時期です。
- ・茎水分が50%を超えると、こき胴でもまれ、汚損粒の発生原因となります。
茎水分50%以下の目安は、分枝が手でポキポキと折れるときです。
周囲の株と違い、青々として残っている株は抜き取りましょう。
- ・子実水分が20%以上ではつぶれ粒の発生が多くなります。
- ・収穫の時間帯は、茎葉がよく乾いた頃(晴れた日の午前10時過ぎ～午後5時頃まで)に行いましょう。

3 乾燥

子実水分が高いものを急速に乾燥させると、裂皮粒やしわ粒発生の原因となります。子実水分を均一に低減させるよう、送風温度等に留意しましょう。

(1) 乾燥初期の送風温度を低く(25程度に)おさえましょう。

(2) 送風湿度を下げすぎないようにしましょう。

(送風湿度50%程度を下限値として、外気温湿度状態に応じて加温条件を設定。ただし、逆に大豆水分20%程度で乾燥初期に湿度と温度を上げると蒸れが生じる場合があります)

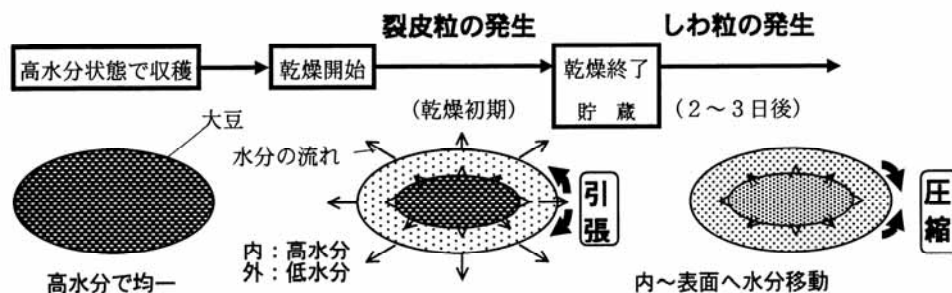
被害粒発生のしくみ

被害粒のうち、裂皮粒やしわ粒は、子実肥大期での充実不足等、成熟期までに生理的に起きるものもあるが、乾燥時にも発生することが知られています。急速な乾燥を避け、土作り等で地力の維持に努めることも必要です。また、亀甲じわは、子実形成から収穫期前後までの乾燥・吸湿の過程で、皮と子実の収縮・伸長の繰り返しが原因でおきるので、刈り遅れは厳禁です。

裂皮粒・・・乾燥初期に表面水分のみが急激に低下した場合

= 送風温度が高く、乾いた空気を送った場合に多発!

しわ粒・・・同様に裂皮しない程度に変形した表皮に大豆中心部からの水分が移行し発生



小麦

小麦の播種適期を迎えています！！

例年播種が遅れることによって生育量が足りないまま越冬する小麦は場が多く見受けられます。適期を逃さず作業を行い生育量の確保に努めましょう。圃場条件が整わず適期を逃した圃場では、播種量を増やし、条件の良い時を待って播種しましょう。

1 小麦の播種適期を迎えています。

小麦をはじめ、畑作物にとって播種は非常に重要な作業です。適期を逃さず確実に播種を行い生育量を確保しましょう。

2 もしも適期を逃したら・・・播種時期が遅れたときの播種量の考え方

- ・ 各地区の播種晩限から1週間遅れるごとに10%播種量を多くします。
- ・ 県中南部で播種時期が11月に入るような場合は冬期播種に切り替え、12月以降に播種を行います。
- ・ 播種適期はできるだけ守るのが基本ですが、ほ場条件が良くない場合には作業を見合わせましょう。無理に播種しても発芽不良になるだけです。適期が過ぎてしまった場合は播種量を増やし、目標株立数が確保できるよう努めましょう。

表2 県内の地帯別播種適期

地帯	播種期(月.日)		適期日数 (日間)
	早限	晩限	
高標高地	9.15	9.25	11
県北部	9.15	9.30	16
県中部及び沿岸北部	9.20	10.5	16
県南部	9.25	10.20	26

表3 品種別の播種量と目標株立数

品 種 名	播種量(kg/10a)		目標株立数 (株/m ²)	千粒重 (g)
	ドリル播	全面全層播		
ナンブコムギ	4~6	5~8	75~120	41
ネバリゴシ	6~8	8~10	130~170	37
ゆきちから	6~8	8~10	120~160	39
コユキコムギ	6~8	8~10	120~160	41
キタカミコムギ	6~8	8~10	115~150	42
ファイバースノウ (大麦)	6~8	8~10	130~170	38

注) 播種粒数に対して株立率を80%(全面全層播は64%)として求めた。

